

報道関係各位

2021年6月28日 株式会社フォレストシー

## 携帯電波圏外エリアにおけるIoT通信インフラの構築に向けた 4者共同実証試験の開始について

株式会社フォレストシー(本社：東京都江東区、代表取締役 時田義明)は、北陸電力株式会社、国立大学法人富山大学、五十嶋商事有限会社と共同で、無線通信技術(LPWA)を活用した北アルプスの携帯電波圏外エリアにおけるIoT通信インフラの構築に向けた実証試験を2021年6月から開始いたします。

当社では、携帯圏外が多い里山・中山間地域のIoT化による地方創生と自然再生を理念に掲げ、「日本の隅々までIoT通信圏外をゼロへ」をスローガンに、LPWAの一種である独自の長距離無線通信規格「ジオウェイブ®」を用いて、主に自治体自営のIoT通信インフラを構築し、さらに獣害対策の負担軽減に役立つ「オリワナシステム®」や、林業従事者の労働安全と生産性向上に貢献する「ジオチャット®」を開発・リリースし、地域の課題解決に貢献してまいりました。

今回、新たに民間企業主体で登山者の安全・安心の確保に向けた取り組みを行うべく、北陸電力・富山大学・五十嶋商事と連携し、有峰ダムと北アルプス薬師岳周辺の山小屋を拠点とする通信インフラの構築に向けた実証試験を4者共同で実施することとなりました。

本日、北陸電力 有峰ダム(富山県富山市)に親機の設置が完了し、今後は山小屋への中継機設置を進めて通信エリアを広げ、富山大学と連携してジオチャット端末による登山者・山小屋間の位置情報を伴うチャットコミュニケーション及びSOS発信を可能とするための実証試験を開始いたします。

実証試験は、今年の降雪前の期間において、通信インフラの構築・運用に係る検証と、通信機器相互の通信状況(登山者の位置情報の把握、メッセージの送受信)及び通信可能エリアの調査を行うものです。

当社は、今後も北アルプスの通信インフラ整備を通じて、携帯電波が届かない地域の遭難者の救助支援や山小屋間の連絡手段の確立を目指すとともに、地域が抱える防災・観光支援等の課題やニーズに積極的に対応し、富山県を始めとした全国の安全・安心に寄与できるように邁進してまいります。



左：有峰ダムに設置済み親機



中央：有峰ダムでの通信テストの様子



右：北アルプス太郎平小屋の様子

■実証試験の概要：別紙参照

■里山通信ウェブサイト：<https://satoyama-connect.jp/>

■本リリースに対するお問い合わせ先：

株式会社フォレストシー 〒135-0022 東京都江東区三好 3-7-11 清澄白河フォレストビル TEL：03-5245-1511

お問い合わせフォーム：<https://satoyama-connect.jp/contact/>



- 株式会社フォレストシーが保有する独自の長距離無線通信規格「ジオウェイブ®」を活用し、北陸電力株式会社が保有する有峰ダムと五十嶋商事有限会社が運営する山小屋に通信機器を設置し、北アルプスの携帯電波圏外エリアにおけるIoT通信インフラを構築します。
- この通信インフラ上で、株式会社フォレストシーのチャットコミュニケーション及びSOS発信端末「ジオチャット®」を用いて、登山者の位置情報のモニタリングや、遭難を想定した緊急SOS通報の有効性を確認する実証試験を行います。
- 国立大学法人 富山大学が、ジオチャットを用いた中山間地域での無線通信調査、データの分析及び活用の検討を行います。
- 実証期間は、2021年6月～2022年2月を予定しています。(現地での実証は、2021年7月～10月を予定しています。)

## 通信エリア及び分担のイメージ

